

安全輸送スローガン

我社は、安全管理規程にのっとり、輸送安全確保にたゆまなく努力をし、地域に信頼される健全な企業を目指します。

令和2年度 安全目標

- 法令の遵守
- 飲酒運転撲滅
- 防衛運転の励行
- 右左折時一旦停止の徹底
- クレーム～0件
- 車内事故防止の徹底（高齢者の車内事故防止）
- 車庫・駅・駐車場での自損事故の撲滅
- ※ 事故件数削減数

加害事故車別	令和2年度目標件数	令和1年度件数
人身事故	0件	2件
車内事故	0件	3件
物損事故	10件	17件
車庫・駅・駐車場等事故	0件	8件

班別無事故競争 目標：全班～無事故

- 令和2年春の交通安全運動（4月6日～4月15日）
班別無事故競争（4月6日～5月31日 56日間）
- 令和2年秋の交通安全運動（9月21日～9月30日）
班別無事故競争（9月21日～11月15日 56日間）

下津井電鉄株式会社
安全輸送サービス推進委員会

令和2年度 年間努力目標

年間 スローガン	プロとしての誇り・責任を持ち、みんなの安全・安心守ります。	
	月間努力目標	指導ポイント
4月	思いやり運転の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・高齢者・障がい者等の交通弱者保護 交差点付近・横断歩道での歩行者・自転車の確認の徹底
5月	かもしれない運転の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 危険を予測して、減速、徐行、一旦停止 事故防止ができてこそプロのドライバー
6月	車両構造上の特性を把握	<ul style="list-style-type: none"> 死角に隠れた危険を予測し、オーバーハング・内輪差を考慮した運転 慎重に後退し、安全が確保できなければ降車して目視確認
7月	乗客の車内の安全確保・ 車内事故防止	<ul style="list-style-type: none"> シートベルトの装着を徹底し、アナウンス等の活用で車内事故防止 なめらか発進・ブレーキ・ハンドル操作を心がけ、特に高齢者への配慮を徹底
8月	健康管理の重要性	<ul style="list-style-type: none"> 健全な生活習慣と健康管理 十分な睡眠と過労防止
9月	運行路線、経路の安全確認	<ul style="list-style-type: none"> 運行経路の確認を徹底し、慣れた経路でも慎重な運転、場合によっては分岐点手前に停車して再確認 同じ道路でも時間帯による危険状況の変化に留意
10月	乗降時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 止まって開扉、閉扉して発車 車内ミラーでの再確認の徹底
11月	道路・交通状況に応じた運転	<ul style="list-style-type: none"> 慣れた道でも危険箇所を再確認 早めのライト点灯
12月	イライラ運転の防止	<ul style="list-style-type: none"> 一般ドライバーの手本となり、特に、進路変更はしっかり周囲を確認 回復運転は事故の元
1月	冬期に於ける安全運転の心構え	<ul style="list-style-type: none"> 冬用タイヤの装着とタイヤチェーンを携行し、道路状況に応じた走行 運転技量を過信しないのがプロ運転者
2月	危険予測の防衛運転の励行	<ul style="list-style-type: none"> いつも冷静にゆとりを持って思いやり運転 予測の連続が防衛運転
3月	気の緩み事故防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 油断大敵、気持ちにメリハリを 車庫内、直線道路は事故多発、特に注意して事故防止

大地震発生時の措置

- 1.止める…ハザードランプを点灯し、周囲の安全を確認後、交差点を避け道路の左側にバスを停車する。
- 2.確かめる…乗客に地震が発生し、停車したことを説明し、地震情報や道路及び周辺の状態を確認する。
- 3.知らせる…運行管理者(本社又は営業所等)に状況を報告する。
乗客に今後の運行について説明する。
- 4.離れる…降車してもらう場合は、最も安全と思われる場所で、乗客の降車を誘導する。
- 5.車両の措置…やむを得ず、バスを放置する場合は、エンジンを止め、サイドブレーキを掛け、エンジンキーは、つけたままにする。また、窓は閉め、ドアはロックしないようにする。
- 6.導く…状況によっては、降車した乗客の避難誘導や負傷者の救護処置等に当たる。

異常気象時の措置(簡略版)

- 1.緊急連絡体制による情報共有に徹し、組織的な対応をする。
- 2.運行の変更、中止などの具体的な基準に則った運航をする。
- 3.気象情報を共有し、状況が急変した場合には、周囲の安全に配慮しながら安全な場所(原則バス停)に停車する。運行管理者(本社又は営業所)に状況等を報告する。
- 4.局地的な大雨による冠水や通行規制に注意する。
- 5.強風や突風などによる横転事故に注意する。
- 6.乗客の安全を最優先し、安全な場所に避難する。

異常気象時の措置(詳細版)

- 1.局地的な大雨、台風による洪水災害、低気圧による突風、竜巻、大雪など、「運行途中に異常気象に巻き込まれた場合、迅速に対応するための連絡網を構築し、日頃から体制を整えておく。
- 2.適切な指示が出せるよう、平素からハザードマップなど必要な資料の入手に努め、安全なルートなどを把握しておく。
- 3.運行を中止するか、待機するかなど判断をするための具体的な基準を決めておく。
- 4.局地的な大雨の時などは、高架下等がアンダーパス構造となっている場所(鉄道の高架下など周囲より急に低くなっている道路)が冠水することなど、危険個所のチェックをするとともに、ドライバーに対して安全に走行するよう徹底する。
- 5.低気圧や台風の接近で風の強い日は、橋や高架を走行するときに規制速度を守り、できるだけスピードを落として走行するよう徹底する。
- 6.少しでも不安を感じたら、現場の判断で勇気を持って運行を停止し、「乗客の安全を最優先する」、「安全な場所に避難する」よう徹底する。

バスジャック・テロ時の措置

- 1.乗客の安全確保を最優先する。
- 2.運行の安全確保に最善をつくす。
- 3.乗客及び運行の安全を確保するため、犯人を刺激しないよう、要求に従って行動する。
- 4.状況を判断した上で、犯人に気づかれないよう、非常用防犯灯等の緊急連絡装置を作動させる。
または、非常点滅表示灯(ハザードランプ)の点灯を継続し、あわせてパッシングを繰り返す。
- 5.無線、携帯電話等の通信機器が装備されており、その使用が可能ならばあいには、犯人に気づかれないよう、営業所及び警察(110番)に連絡する。
- 6.無謀な犯人逮捕などは行わず、警察の対応に対して、できる限りの協力を行う。

バス乗務員安全運転6則

- ①プロとしての自覚を持ち、法令を遵守し、社会的使命を果たすために安全運転とエコドライブを励行しよう。
- ②確実な日常点検整備と、厳正な点呼による指示事項を遵守しよう。
- ③バスの構造上の特性を理解し、特性に応じた運転をしよう。
- ④乗降時の乗客の安全を確保し、旅客の安全を守る運転をしよう。
- ⑤運行経路上の安全情報を常に意識し、危険を予測して運転をしよう。
- ⑥健康管理を徹底し、飲酒運転・酒気帯び運転及び覚せい剤の使用を撲滅しよう。

路線バス車内事故防止6則

- ①乗車時は、乗客が完全に着席、手すり等につかまったことを確認し、車内アナウンス等で、高齢者、妊婦等の着席を誘導しよう。
- ②発車時は、着席の確認と車内アナウンス等で注意喚起をし、滑らかな運転操作で発進をしよう。
- ③走行中は、社内外の安全を適宜確認し、「急」がつく動作にならぬよう適切な車間距離を確保しよう。
- ④減速停止時は、「バスが止まり扉が開いてから席をお立ちください。」などの車内アナウンス等で注意喚起をし、緩やかに減速停止をしよう。
- ⑤降車時は、歩道に接近して停車し、降車客の有無と扉を閉める前に目視・ミラー等による安全確認をしよう。
- ⑥事故発生時は、速やかに負傷者の救護処置をし、運行管理者などに状況を報告しよう。

貸切バス車内事故防止3則

- ①発車前にシートベルトの装着を案内し、装着状況を目視で確認しよう。
- ②走行中は、社内外の安全を適宜確認した運転を心がけ、路面の状況等を確認し、段差がある場合は、減速しよう。また、「急」がつく動作にならぬよう適切な車間距離を確保しよう。
- ③事故発生時は、速やかに負傷者の救護処置をし、運行管理者などに状況を報告しよう。

高速道路安全運転6則

- ①お客様にシートベルトの着用を案内し、着用状況を確認しよう。
- ②法定速度制限を守り、適切な車間距離を確保しよう。渋滞中も気を緩めないよう注意しよう。
- ③料金所・合流地点・分岐地点・カーブ・トンネルなど危険な場所に注意しよう。
- ④目的地までのルートをよく把握し、道路標識・案内標識などの確認をしよう。
- ⑤急ハンドル、急ブレーキを避けた運転をしよう。合図は早めに出し不必要な車線変更はしないようにしよう。
- ⑥非常時には、非常点滅表示灯、駐車灯または尾灯を点灯させ、停止表示器材、発炎筒などを設置しよう。非常電話等で通報を行い、速やかに旅客を安全な場所に避難誘導しよう。

夏期安全運転6則

- ①規則正しい休息時間を確保し、疲労回復に努めよう。
特に、暴飲暴食を避け、寝る環境を整え、体調をベストに保とう。
- ②体調保持のため、こまめな水分補給を心がけ、熱中症などに注意しよう。
ただし、冷たいドリンクを飲みすぎないようにしよう。
- ③運転中に体調の異変を感じたら、無理に運転せず、速やかに車両を停止し、すぐに運行管理者などに報告しよう。
- ④「考えごと」や「居眠り運転」を絶対しないよう運転に集中しよう。
- ⑤花火大会や祭りなどのイベントによる運行（臨時運行や迂回運行等）については、事故防止を徹底しよう。
- ⑥夏休み期間中は、子どもや自転車の飛び出しに十分注意しよう。

冬期（積雪・凍結）安全運転6則

- ①雪道では、冬用タイヤを装着し、タイヤチェーンを携行しよう。
- ②タイヤチェーンの「着」は早めに、「脱」は遅めにしよう。
また、チェーンの着脱時は、サイドブレーキの引き忘れに注意し、安全なところで行おう。
- ③「急発進・急加速・急ハンドル・急ブレーキ」などの「急」のつく操作は、絶対に行わないように注意しよう。
- ④路面状況に対応して、エンジンブレーキや排気ブレーキを十分活用し、減速や徐行をしよう。
（タイヤをロックさせないように注意しよう。）
- ⑤橋の上や踏切、早朝夜間など、場所や時間による路面変化に注意しよう。
- ⑥気象情報を共有し、地吹雪、凍結、強風等の発生しやすい区間などの道路状況を把握しよう。

行楽期安全運転6則

- ①渋滞等を予測した余裕をもった運行計画を立て、イライラ運転による事故防止を徹底しよう。
- ②子供や高齢者の行動特性（飛び出しや夜間の横断など）に応じた運転をしよう。
また、訪日外国人等の動向にも注意しよう。
- ③交通ルールやマナーを遵守した運転を心がけよう。
また、他府県ナンバーの車の動向に注意し、急停車や追突事故にならないように注意しよう。
- ④集客施設等周辺では、危険を予測した運転をしよう。
- ⑤渋滞などによる遅延時には、無理な運転は避け、必ず運行管理者（本社又は営業所）に状況を報告し、指示を受けよう。
- ⑥健康管理を徹底し、飲酒運転・酒気帯び運転を根絶しよう。

降雨期安全運転6則

- ①フロントガラスの汚れを落とし、ワイパーブレード等の点検を徹底しよう。
ガラスの曇りは、止まって拭き取り、エアコンなどを作動させ、視界の確保に努めよう。
- ②路肩や水たまりの走行は避け、泥はね運転に注意しよう。
- ③傘をさしている歩行者や自転車の動向に特に注意しよう。
- ④スリップに注意し、急発進、急加速、急ハンドル、急ブレーキなどの「急」のつく操作は、絶対に行わないように注意しよう。
- ⑤ヘッドライト等を積極的に点灯して、走行しよう。
- ⑥スピードを控えめに、車間距離を長めにとり、慎重に運転しよう。